

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI



30 JULY 2007

No.148

小樽商科大学

学園だより

緑丘祭・緑宵祭

【特集・by学生編集員】
商大のいいところあるところ







学園だより

題字は 秋山義昭 学長

No.148 30 JULY 2007
OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

CONTENTS

特集・by 学生編集員 商大のいいところ わるいところ	2
コラム 100周年に向けて グリークラブとグリーン	8
保健管理センターだより ヘルシーライフジャーナル.....	17
緑丘祭・緑宵祭	18
NEWS	20
新任教員紹介	
前田 陽 (商学科)	22
大岩 利依子 (商学科)	22
才原 慶 道 (企業法学科)	23
西永 亮 (一般教育等)	23
写真で見る小樽高商・商大小史	24



商大の いいところ わるいところ

～ アンケートの概要～

アンケートの目的

ひとつは、普段あまり対立して意見を交えることのない学生と大学側との意見を交える場をつくることであり、もうひとつは、そこから見えてくる良い点・悪い点を通して、学生と大学側の双方が積極的に改善できるところは改善していき、また商大がより活気あふれる大学になるきっかけになることである。

アンケート方法

- ・インターネット(メールとmixiでのアンケート実施)
- ・学生用に授業前やゼミ室にアンケート用紙を配布、
- ・回収ボックスの設置・教員・職員にアンケート用紙を配布

アンケート回収率

学生：14% (配布した850枚の内、119枚を回収、メールによる回答は3通)
教員：8.6% (配布した140枚の内、12枚を回収)
職員：15.7% (配布した70枚の内、11枚を回収)

設問の内容

- ：商大(商大生)のいいところはどこだと思いますか？
- ： の質問についてそう思う理由をお聞かせください。
- ：商大(商大生)の悪い・改善すべきところはどこだと思いますか？
- ： の質問についてそう思う理由をお聞かせください。
- ：その他、気づいた点・意見があればなんでもお聞かせください。
- ()内は教員・職員向け

学生 VS 大学



学生編集員スタート！

本年4月から、大学では「学園だより」の企画・編集のため、2年生の伊藤 翔さん、小野由希菜さん、國上 郁子さん及び佐藤亜美さんに編集員をお願いしました。

これまでの「学園だより」は、大学側の企画のみで、必ずしも学生の声を反映したものでなかったこともあり、新たに4人の学生に企画から参加してもらい、より興味をもって読んでもらえる「学園だより」を作成することを目的とするものであります。

今回は、特集として「商大のいいところ・わるいところ」、本学100周年に向けての記事「グリークラブ」を、学生編集員4人が協力して記事を仕上げました。

学園だよりは、年4回発行予定で、7月号と10月号の発行号について、学生編集員に協力してもらいます。

次回の発行号についても、ご期待下さい。

【学務課】

商大生に聞いた!! 商大の『いい』ところ

自然が身近に 感じられるところ

- ・小鳥のさえずり、周囲の風景が美しい
- ・大学が山にあるから



景色が良い

- ・とてもきれいでリラックスできる
- ・坂の上にある
- ・海が見える



緑が多い, 桜がきれい

- ・健康にいい
- ・春らしい気分になる

小樽にある ところ

- ・親しみやすい

いい意味で!

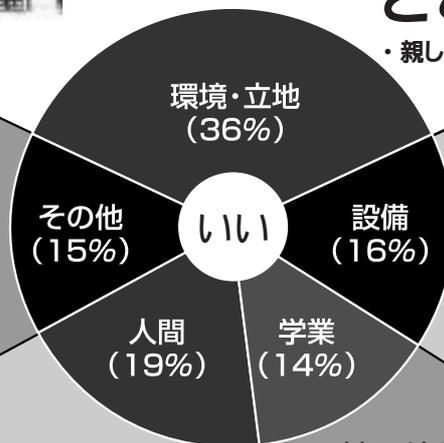
小樽市から
大事にされている

就職に強い,有利

- ・就職活動をしていて実感した

国際交流活動がさかん

- ・留学の手配など
- ・国際活動に積極的



キャンパスが狭いところ

- ・狭いから講義から講義への移動が楽
- ・道に迷わなくてすむ

学食がおいしい

- ・カレーがうまい
- ・学食のささみチーズカツがおすすめ

パソコンの設備
が充実している

単科大学

第2外国語が
充実している

英語のクラスを
自分で選択できる

- ・自分のレベルに合わせられると勉強しやすい

学科にとらわれず,
幅広く履修することができる

- ・学科科目に興味もてなくても、関心に合わせて専門的に学べて、モチベーションの維持につながる
- ・学科を越えて履修できる。商学に必要な知識を一学科で身につけることは難しいので、良いことだと思う
- ・興味を持てば色々な講義が受けられる

留学生と関わる ことができる

- ・語学力があがる



小規模大学ならではの アットホームな環境

- ・知り合いがふえる
- ・友達が作りやすい
- ・生徒に自主的に働きかけてくれる先生が多い
- ・学生と先生方との距離が近い



留学生から一言 「サークル活動を通してもっと商大生と交流したい！」

As a foreign exchange student at Otaru Shodai I have been given many opportunities. Shodai offers the perfect environment for students to pursue an education not only in Japanese language but also business, economics and culture. The professors and fellow Japanese students at Shodai have made staying in Otaru a unique and wonderful experience.

Though we have many chances to interact with Japanese students, many exchange students would like to participate more actively in Shodai students club that offer sports and other activities. The martial arts clubs were of great interest to some of us. But sadly, joining these clubs would prove difficult.

However, the International club has done an amazing job of providing activities and events for exchange students to take part in on a regular basis. Their kindness and hard work is always clear. We all appreciate everything that has been done for us over this past year. Thank you so much. by R.D.



太字はP2に記載の質問 に対する記述。細字はそれぞれの理由。



わるいところ

授業中騒がしいところ

- ・簡単な授業へと集まる傾向があり参加態度が悪い
- ・勉強したいのに気が散る

留学生との交流の場が少ない
学生のマナーが悪い
学務課の学生に対する態度

- ・人の話を聞かない
- ・学務課の都合でしか動かない
- ・あいさつをしても顔をそむけられたり、暴言を吐かれたりした

タクシー代 バス代が高い
・商大まで定額にしてほしい

小樽活性化に貢献するべき
・大学も地元活性化につながるイベントをもっと積極的に考えたら良いのでは？

ケータイの電波がない

学生がすぐ札幌に帰る

キャップ制

- ・キャップ制があるために履修できない科目や 単位の上限があるため困る
- ・卒業単位を取りにくい
- ・もっと興味単位で様々な授業を受けたい



授業が重なっている

- ・時間割りを組むのが大変
- ・履修したい授業が重なっている
- ・興味のない授業をやむをえず取ることになる
- ・全体的に授業が午前中に固まっている

履修制限(抽選)

- ・人気のある授業は多めに開講して 抽選を少なくしてほしい
- ・1つの授業が履修制限により取れなくなると他のすべての時間割りがずれ 計画をやり直さなければならない



周囲に店がない

- ・大学の近くに住む人にとっては暮らしにくい
- ・生協でしか買出しができない
- ・コンビニが近くにない

カーブ!



虫やカラスが多い

- ・授業中に虫が入ってくる

バスの本数が少ない

- ・バスが21:20までしかない
- ・冬に商大からバスに乗る時に混雑することがある

大学のある場所が悪い

- ・交通の便が悪い
- ・大学が坂の上にあるので 登下校が疲れる
- ・夏通うのが大変

図書館の蔵書

- ・もっと新書を増やしてほしい
- ・新刊の話題図書がない

昼休みに情報処理室の係りの方がいなくて困る

- ・1番混んでいる時間帯の昼休みに、パソコンに異変があったとき大変

体育館の利用できるスペースが足りない

- ・外部活の人が冬は体育館を使うから困っている

教室 学食が狭く、座れない

トイレ、サークル会館、合宿所が汚い

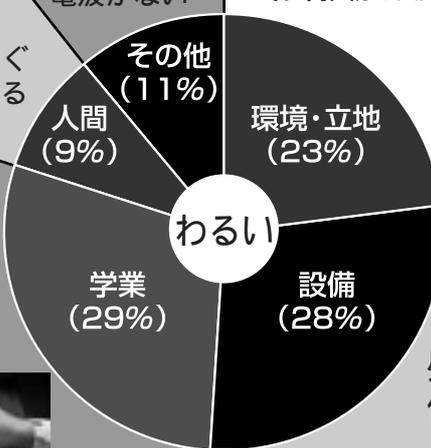
- ・トイレの場所によって清潔感の違いが大きい

大学に来ないとわからない情報が多い

- ・成績や教室変更 履修登録など
- ・連絡が生徒に行きわたらない

5号館の階段が多くて狭い

- ・470教室や370教室などの大きな教室や教室数に見合った広さではない



アンケート集計結果

教員

真面目

- ・言われたことは実行する(守る)学生が多い。
- ・真面目に課題に取り組む。
- ・真面目で熱心。
- ・授業を休まない。
- ・授業中に携帯を鳴らさない。

人間性が良い

- ・礼儀正しい生徒が多数いる。
- ・人間としてバランスがとれている。
- ・傍若無人な振る舞いをする人物はいない。
- ・元気が良い。
- ・他の大学生より若干大人。
- ・注意すると素直に聞く学生が多い。
- ・教員等に挨拶をする。
- ・格好をつけずに正直で素直。
- ・人の言うことに耳を傾ける。

その他

- ・勉強以外の意欲が盛ん。
- ・将来の目標設定を考えている。
- ・潜在的可能性が大きい。
- ・学生間の交流が活発。
- ・ある程度勉強をするし社会生活のさまざまな面に強い関心を持っている。
- ・人と話すこと人と会うこと人のために動くことを嫌がらない。(ビジネス成功の条件)
- ・他大学の学生と比べると自主性・主体性がある。

単位取得を気にしすぎる

- ・単位取得至上主義である。
- ・講義の履修にあたり単位をとりやすいかどうかを優先しすぎる。

自己主張が少ない

- ・他人の意見に流されやすい。
- ・授業やゼミで急におとなしくなる。

授業(勉強)態度に関して

- ・一般教養など非実学・非専門学科への興味が非常に薄い。
- ・私語が多いことがある。
- ・もう少し復習をして欲しい。
 - ・知らないことを知ろうとする意欲に欠ける。
 - ・聞いたことを一旦疑って自分で確かめようとならない。

その他

- ・男子の元気がない。
- ・行事等の際に、すぐにお金の話を持ち出すのは品が良いとは言えない。
- ・仲が良いもの同士で群れる傾向にある 結束力が弱くなってきている。
- ・夢を語りたがらない。(商大生に限らず)
- ・思いきり自分の好きなことを求めて欲しい。
- ・世界に目を向けて欲しい。
- ・もっと堂々として欲しい。(アルバイトなど小さなことにエネルギーを費やし自分の未来のこと日本や世界のことについて考えることが少ない)

商大生

太字はP2に記載の質問 に対する記述。細字はそれぞれの理由。

職員



真面目、一生懸命

- ・接した範囲では 勉強も真面目でサークル活動にも頑張っている学生が 充実した学生生活を送っているという印象が強い。一生懸命取り組んでいる姿は 清々しい学生だと思います。
- ・勉強熱心。
- ・全体としてまじめで素直。
- ・真面目なところ。

素直

- ・おとなしい。(素直)
- ・考え方が純粹。

積極的

- ・アクティブなところが良いと思う。
- ・講義以外のことにも積極的に取り組んでいる。

その他

- ・4月に転入してきたためまだよくわからない。
- ・商大生同士の仲間意識が高い。
- ・改革精神 反骨精神をもっている。
- ・社交的。
- ・他の大学生より若干大人。(特にお酒に関して)

マナーが悪い

- ・大学の施設を大切にしない(扱わない)。タバコのポイ捨て及びゴミ捨て。借りた物を責任を持って返さない。(人まかせ)また エネルギー・資源物等(戸締り・消灯・節水)を大切にしない。
- ・口のきき方が悪い学生も多い。
- ・ゴミの分別マナーが悪い。学生会館の使い方 汚い。
- ・マナーは以前に比べれば改善されていると思いますが 商大生の誇りを持てる学生になって欲しいと思います。
- ・合宿所を退所する際に掃除していない。
- ・吸いがらを 灰皿がすぐ近くにあるにもかかわらず ポイ捨てる。

商大生

その他

- ・大学の基本方針「紳士 淑女をもって遇する」に値する行動をせよ。
- ・自分の意見を明確に言える学生がいる反面 意思表示ができない学生も見受けられます。
- ・掲示板を見ない。授業中私語が多い。先輩からの悪い所を守る。(受け継ぐ)
- ・仲間意識をはぐくむこと。元気がない。
- ・特になし。というかわからない。(学生と職員のふれあう機会が少ない)
- ・物事を効率のよいこと優先で考える学生が多い。(実際に行わず頭の中で結論を出してしまう)
- ・授業料免除及び奨学金の申請は 親のためにするのはないのだからきちんと自分で書類を整えて提出してほしい。
- ・勉強以外の意欲が盛ん。(特に男女交際)
- ・単位取得至上主義。
- ・一般教育など非実学・非専門系科目への興味が非常に薄い。
- ・女子に比べて男子が元気ない。

100周年に向けて

COLUMN

第1回 グreekクラブとグリーン

商大100周年を記念し「100周年に向けて」と題したこのコラムでは、商大の歴史や伝統を振り返ったときに学生編集員が、「現役生に是非紹介したい！伝えたい！」と感じたものを取り上げていきます。記念すべき第一回目は、「部・サークル活動」をテーマに「小樽商科大学グreekクラブ」を取り上げます。

緑色が深くなった。とりわけ商大のキャンパス内に堂々と構えるあの大きな木の。その木は心地よい日かげをつくりだし、暑さにこたえた学生たちにひと時の癒しを贈る。またその美しい緑色は学生たちの目を楽しませている。緑は英語でGreen,そしてカタカナで表せば「グリーン」だ。この「グreek」の響きにはっとする人がいることだろう。本校のあの男声合唱「グreekクラブ」を思い浮かべるからであろうか。「グreekクラブ」は英語ではGlee Clubだ。“r”と“l”の発音は全く違うが、カタカナで表すと同じになる。似て非なるものである。いやこの場合、「非して似なるもの」であると言った方がよいかもかもしれない。

「グreekクラブ」の正式名称は、「小樽商科大学グreekクラブ」だ。しかし創立当初からこの名ではなかった。ご存じであったろうか？学生のなかにはグreekクラブをあまりよく知らない学生もいることと思う。では早速、グreekクラブの歴史を紐といていくとしよう。

グreekクラブの前身は大正9年に創立された「小樽高商音楽部」である。デーゲン先生、スミルニッキー先生に育てられグreekクラブの基礎が築かれた。音楽部は声楽部門と楽器部門があり、歌と楽器演奏が活動をともにし



大正13年度卒業アルバムより



大正13年度卒業アルバムより

ていた。この楽器部門というのが現在の「プレクトラムアンサンブル」の前身である。小樽高商音楽部の演奏会では、歌あり、マンドリン演奏あり、またピアノ・フルート演奏ありの盛大な演奏会であった。昭和20年代、現在の市民会館やマリナーホールといった会場がなかったこの時代、小樽市で唯一演奏会を開くことのできた場所は市議事堂の最上階だった。商大の音楽部はここを貸し切って、演奏会を行った。商大生が奏でる演奏会は、商大生だけのものではなく、同時に市民の楽しみの一つであった。

名 が「小樽商科大学グリークラブ」に変わったのは、昭和32年の時。昭和24年に楽器部門と分かれてから10年後のことだ。その後、演奏旅行を再開し、また他大学の合唱部と「ジョイントコンサート」を開催するなど、さらに活動の幅を広げていった。

演奏旅行は、夏季の休みを利用してある地域で演奏会をするという、部にとって大きなイベントであった。これは戦前、「小樽高商都市巡回演奏会」と称され行われていたが、戦時中は一度中断した。戦後、音楽部が声楽部門と楽器部門と分かれた後(のち)、昭和27年からグリークラブとしてこの演奏旅行を再開する。また初めて内地へ演奏旅行に行

ったのは、昭和31年である。道内の地域だけではなく本州へも遠征した。昭和29年卒と昭和31年卒のOBの方々に当時の事を訊ねると、「あの頃は個人で旅行に行くことは金銭的に難しかったから、この演奏旅行は学生にとって大きな魅力だった。これが目当てで入部した学生もいたな」と笑顔で語っていた。また、会場で演奏するだけにとどまらないのが、さすが本校のグリークラブである。昭和49年の定期演奏会のパンフレット内にある「クラブのあれこれ 夏季演奏旅行」では、次のように書かれている。

「夏はなんといっても夏のハイライトは演奏旅行である。(中略)演奏旅行はまず駅前での『路地の仕事』の歌で始まる。デモンストレーションを兼ね、『小樽商大グリークラブ 夏季演奏旅行』のたれ幕を手を持って歌うわけである。だが、皮肉にも駅前にタクシーの運転手しか人がいないことが間々ある。」(昭和49年 定期演奏会パンフレットより引用)

さらに、演奏会で訪れた地域の各小学校におもむき、「音楽教室」を無償で開いて歌を教えていたという。

ジョイントコンサートでは、男声合唱部に限らず女性合



昭和11年度卒業アルバムより



昭和2年度卒業アルバムより



昭和11年度卒業アルバムより



昭和30年度演奏旅行 街頭にて
(写真提供：入江惟之様)

唱部とも、また道内だけではなく道外の合唱部とも協力しあい成功をおさめてきた。ほんの一例であるが、北海道大学合唱団、横浜国立大学グリークラブ、清修短期大学合唱団、これらの大学と交流を深めた。

ジョイントコンサートや演奏旅行は、小樽や商大にとって大きな役割を果たしたといえよう。なぜなら、各地での演奏会はグリークラブの名が知られると同時に、小樽という街や小樽商科大学という大学を、各地の人々に知ってもらう良い機会でもあったからだ。特に本州では、小樽も小樽商科大学の存在も知らない人がいたようで、内地で会場を借り演奏会をしようと思ったならば、まず小樽がどこにあるのか、商大とはどのような大学であるかを説明する必要があったのだという。

商大に道外からの学生が多かったのも、この音楽部の演奏旅行、そして後のグリークラブの演奏旅行の影響が少なからずあったと考えられる。

90年代まで行っていた演奏旅行やジョイントコンサートは、現在行われていない。しかしグリークラブの歌声は今もなお、小樽市市民合唱祭、年に一度の定期演奏会、そして商大の行事において聞くことができる。入学式



昭和11年度卒業アルバムより



昭和36年度卒業アルバムより



昭和30年度定期演奏会 小樽市議事堂にて
(写真提供：入江惟之様)



昭和28年
演奏旅行 倶知安駅にて
(写真提供：入江惟之様)

や卒業式で校歌と若人逍遥の歌を斉唱し華を添え、8月15日の終戦記念日に行われる緑丘戦没者慰霊祭では、校歌を参列者とともに斉唱し、心に染み入る歌声を響かせてくれる。80周年をすでに迎え90周年を目前とした今も変わらず、グリークラブは商大にとってなくてはならない存在である。

ところが グラフ1 をご覧になってほしい。現在グリークラブの部員数は4名である。内3名は4年生であり、来年には1名になってしまう。先の応援団のように、部の存続の危機にさらされているのだ。

応援団同様、グリークラブも男子校であった高商時代の特徴を、他の部に比べ強く受け継いでいる。本校が共学化し女子学生が全体の4割を占めている現在、女子学生の増加が部員数減少の原因の一つであるとの見方もある。また、全体的に部やサークルへ入部する学生が減っている一方、部・サークルの種類が多いことも原因の一つだと考えられる。

ここで グラフ1~3 をご覧になってほしい。グラフ1はグリークラブの部員数の推移を表しており、グラフ2は女子学生の全学年在校生に占める割合を示したものである。これを見るとここ10年間は39%~41%の間で女子学生の割合は推移しており、大きな増加は見られない。グラフ

昭和62年度大学案内より



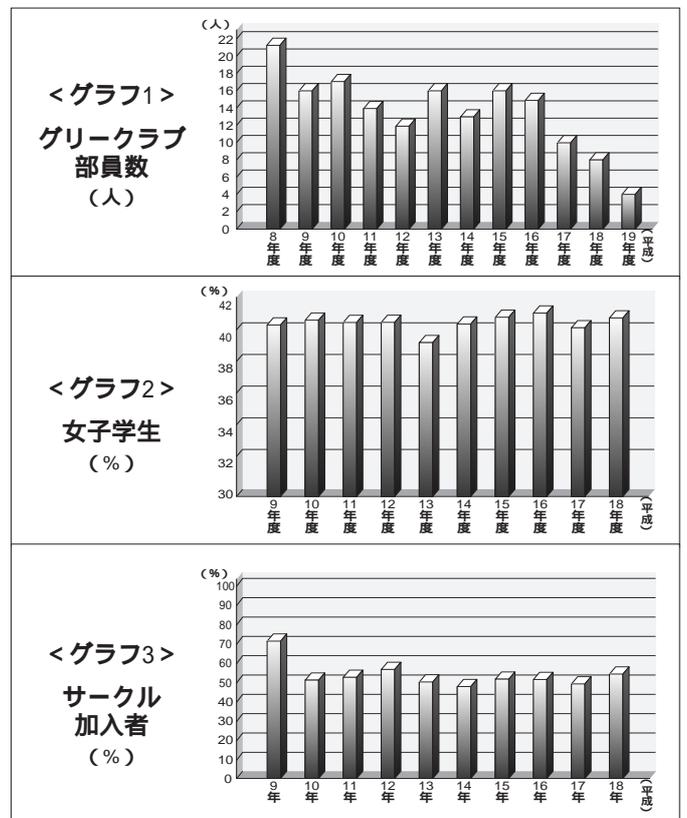
昭和28年
演奏旅行 俱知安駅にて
(写真提供：入江惟之様)

1 と グラフ2 を比べて見ると、この10年間のグリークラブの部員数は、女子学生割合にあまり影響されていないように感じる。また、グラフ3 は全学年在校生に占める部・サークルの加入者の割合であるが、これも グラフ1 と比べて見ると、グリークラブの部員数は全体の入部の増減にあまり影響されていないと考えられる。

ここで グラフ1 だけを見てみよう。グリークラブの部員数に波が見られる。平成12年度と平成14年度に特に部員の減少が見られるが、しかしまた増えてほぼ元の数に戻っている。戻らなくなったのは平成17年度の減少以降だ。平成17年に何があったのだろうか。

実はその年、前年にあった諸事情のため、グリークラブはサークルオリエンテーションや合同説明会そしてピラ配りなどの新入生歓迎活動をせず、平成17年度の入部数が0名であったのだ。現役のグリークラブの部員は、「今までサークルオリエンテーションや合同説明会で部員が入る形であったから、とても厳しかった」と当時を振り返り苦笑している。また、「グリークラブに限らず、部・サークルに入る学生の数が減ってきている」「合唱への印象が良くないのではないか」「中学校・高校の合唱コンクールのイメージが強くて、グリークラブがどんな活動をしているのかわからない

人が少ないのではないか」と部員たちは部員の減少についてこのように述べていた。



<グラフ1>の部員数は商大グリークラブさんより教えていただきました。また<グラフ2>、<グラフ3>の割合は過去10年間の「学園だより」からデータを集め計算したものです。



昭和29年度大学祭 本学講堂にて
グリークラブの部員を含む有志の楽器演奏
(写真提供：入江惟之様)



昭和28年度札幌大学音楽交換会 札幌松竹座 HBC主催
グリークラブの部員を含む有志の楽器演奏
(写真提供：入江惟之様)





昭和50年代 当時の部員のアルバムより
 (写真提供: 大石晴也様)



昭和50年代 当時の部員のアルバムより (写真提供: 大石晴也様)

「非して似なるもの」と、冒頭で述べた。「グリークラブ」と「緑(グリーン)」は一見異なるものであるが、しかし「伝統」を「緑」に喩えるならば「似なる」ものであろう。

「グリークラブ」は商大の伝統の一部と言っても過言ではない。

緑丘と称されるように、商大には緑があふれている。そして高商時代から現在に至るまでずっとその色はあせていない。しかしその緑に、はたして何人の学生が目を向けているであろうか。意識して見ることは少ないのではないだろうか。緑というものが空気のように当たり前のものになって、あえて注目するものでなくなっているのかもしれない。それとも、自分のまわりのごく狭い範囲の以外には興味がなく、自分が置かれている全体を見ていないのであろうか。ひょっとしたら、他の大学の緑の方が青いとそちらに目を向けているのかもしれない。商大の緑はこんなに学生に魅せようとしているが、関心を寄せる者が少ないこのままでは、寂しく秋を迎えることになるだろう。そのようなことを、商大を囲む山々の緑、そして地獄坂に並ぶ木々の緑、キャンパスの緑を見て感じる。

そして冒頭で述べた「あの大きな木」がグリークラブに見えてならない。年輪が増え年ごとにより幹が力強くなっていく。まるでグリークラブのようだ。夏になると若葉が

昨年の葉のように色を濃くし、風にゆれて幾千もの葉が音をたてている。その音はまるで合唱のようだ。しかし今年葉が少ない。来年はより多くの葉をつけてほしい。たとえ「時代の流れ」という気候の変化で葉が増えないとしても、幹はその力強さを失うことはないが、葉が全てなくなることだってはならない。気候が原因なら、その気候に合わせて葉を増やすことを考えてほしい。例えば花を咲かせてはどうだろうか。これまで葉の緑色だけであった中に花の色が入ることは、初めは慣れないかもしれない。しかし、それで葉が増えるのなら、花を咲かせてみてはどうだろうか。もちろん他にも方法はある。1つ言えることは、幹は支えることはできるが、来年の葉は今年の葉がどうこの気候に合わせるかにかかっているということである。

来年もその木には、心地よい日かげをつくりだし暑さにこたえた学生たちにひと時の癒しを贈ってほしい。その美しい緑色で学生たちの目を楽しませてほしい。葉が奏でる音楽とともに。(佐藤)

コラムを書くにあたり、池田雄亮様・入江惟之様・高橋満様・大石晴也様をはじめとした多くの商大グリークラブOBの皆様、秋山学長、緑丘会札幌支部様、商大のグリークラブさん、本学のアカベラサークルAIRSさん、北海道大学合唱団さん、北海道大学混声合唱団さんにご協力いただきました。本当にありがとうございました！！



昭和27年 NHK札幌にて 録音風景
 (写真提供: 入江惟之様)



昭和28年 伊達紋別にて
 (写真提供: 入江惟之様)



昭和27年度演奏旅行 名寄労働会館にて
 (写真提供: 入江惟之様)

アンケートの全回答内容!!

商大のいいところはどこだと思いますか?(理由)

環境・立地

- ・小樽にあるところ。
小樽は素晴らしい街で、いつでも観光に行くことができるから。
- ・大学が坂の上にある。景色がいいから。
景色がいい!健康にいい!地獄坂を登った後はやりきった感がある。
- ・帰る時、坂の上から見る景色がきれい。授業のあとの開放感。
- ・景色がきれい。(良い) 山の中だからこそ。
海が見えるから。
- ・夜景や星がきれいに見える。
- ・桜・3号館の前の芝生のところの花がきれい。気持ちやすらぐ。
- ・桜や藤の花などがきれい、リスも出没し自然が豊か。
キレイな花を見ると和むから。
- ・自然が多いところ。夏に涼しい中講義を受けることができる、四季の移り変わりを感じることができる。
- ・海が見える。海が好きだから。
- ・周りの環境が静かなところ。
- ・環境が良いところ。森林が多い。
車が少ないし、木が多いところ。
- ・街中になところ。授業中静かだから。
- ・山中なのに虫が少ない。
キャンパス内を歩いていても気にはならない。
- ・流しそうめんができること。

学業

- ・Wゼミができる。
- ・小規模なのに学科が4つもある。他学科の授業も簡単に受けられる。
- ・単科大学なのに商学・経済・法律・コンピュータなど様々な学問を学べる。学科にとらわれずに、幅広く学べるから。
- ・商・経済・企業法・社会情報の4つの分野を超えて学べる。(多様なニーズに対応) 他の大学では制度上なかなかできないはず。
- ・ゼミが小規模でゼミ室が与えられること。アットホーム、学校に居場所がある。
- ・授業内容。いい意味で毎回手を抜けないほど意味のある授業ばかり。
- ・語学に熱心なところ。
- ・多言語を学ぶことができること。
- ・科目選択性。(多趣味・好奇心旺盛な人に最適)
学科に束縛されなから、幅広い教養が多様な変化する社会環境へ適応できる優秀な人材を輩出できるから。

設備

- ・大きすぎないところ。移動が楽だから。
- ・広すぎないところ。大学内であまり歩かなくていいから。
- ・敷地が狭い。移動が楽。
- ・狭いから教室移動が楽。楽だから。
- ・小規模大学ならではの教室移動の安易さ。
結構離れている教室でも意外に早く移動できる。
- ・ゴミ箱がそこら中にある。
- ・図書館。市立図書館より専門書が豊富。
- ・学食が美味しい。季節のメニューが楽しみ。
- ・保健管理センターがあること。
具合の悪い時など、みてもらおうと安心できるから。

人間

- ・小大学なので学生と教員の間が近い。教授との個人的なつながりがある。
- ・小規模なので大体の人の顔がわかること。
- ・規模が小さい。
他大学にあるような学部間の相違がなく交流が深めやすい。
- ・少人数教育。理解が深まるから。
- ・人と仲良くなりやすい。少人数だから。
- ・人が少なく静か。たくさん人がいてうるさいと不快だから。
- ・ステキな先生が多いこと。先生方に変わった方が多いから。
- ・先輩が優しい。部活が楽しいので。
わからないことも親切に教えてくれるから。
- ・おしゃれな人が多い。
- ・美人が多い、多くね?いや、多いだろ!
なまじ頭のいいだけの人は北大に行くからじゃね?

その他

- ・伝統ある歴史。長く続くのはすごいことだから。
- ・小さいけれど面白いことを色々やろうとしているところ。
新聞などに色々取り上げられているのを見たから。
- ・小さい大学なのに就職率が良い。昔からの伝統、OB・OGのがんばり。
- ・就職率が高いところ。
- ・就職が他の大学より有利。伝統のある大学であるから企業側も安心して採用する傾向にあると思う。
- ・履修登録がパソコンでできること。履修単位の計算を間違えない。
- ・自由なところ。酒と行動が自由だから。

商大の悪い点・改善すべき点はどこだと思いますか?(理由)

環境・立地

- ・虫が多いところ。(トイレや教室に出て気になる) 虫が嫌いだから。
- ・坂の上にあること。来るのが大変。
歩くのがキツイから。
歩くのが大変・汗をかくので、汗が引いた後すごく寒い。
- ・地獄坂がほんとに地獄。登ってる時生きる気力が失せていく。
- ・立地が悪い。駅からくるのに不便、コンビニにも近くない。
- ・近くに店が少ないこと。不便だから。
- ・駅から遠い・部活の設備が悪い。予算が少ないから?
- ・小樽にあること・札幌につかってほしい。遠いから。
- ・タクシー代を商大までは定額でおこなってほしい。
- ・商大行きのバスについて。
1講目から授業がある時にバスに乗りたいのですが、高校生がものすごくいて乗れません。横入りはもちろんのこと、何とか乗れても、何故か「邪魔だ」「乗って来るな」と悪口を言われたりして、乗りづらくてなりません。商大直通便ができたのはありがたいですが、時間帯が遅すぎると感じます。

- ・バスの本数が少ない。
5講が17:40までかかるのに、17:45のバスに乗るのは少しでも授業が延びると厳しいから。
- ・交通の便が悪い。札幌から直行バスを出して欲しい。

学業

- ・キャップ制。卒業単位がとりにくくなるから。(2)
空き時間や学校に行かない日などが多くなり、時間が無駄になるから。(せめて50~60単位にして欲しい)
効率は大切だと思うから。
- ・履修制限がかかったりして、とりたいた授業がとれない。
とりたくない授業を我慢してとらなくてはならないから。(クラスを増やすなどして、対応すべきだとおもう)
学びたいと思った科目が学べないのは、勉学の意欲を失うきっかけになる。
時間割を組むのが大変。

- ・授業が集中して取りたい授業が取れない場合がある。
火・木の4講目以降はゼミがあるので他の授業ができないのは仕方ないと思うが、一・二年生のみが受講する授業をそこに置くべき。
- ・履修したい授業が重なる。とりたい授業が取れない。
時間割を組むのが大変。(2)
受けたい授業を諦めなければならないときや、抽選ではずれた時に考え直すのが大変だから。
- ・必修科目をつくるべきだと思う。
すべて選択なので時間割を作るのが大変で、一般教養も火~木の1~3講に固まりすぎていて取りたい科目が取れないから。
- ・学科間の授業の難易度が違う。企業法は留年率が高い。
- ・同じ科目でも先生により授業内容・テストが違うこと。
クラスによって知識など差がついてしまうから。
- ・語学は火・木、スポーツは月・水・金と偏っているところ。
時間割を組む時不便利だ。
- ・実りのある授業が少ない、ただレジュメを読み上げているだけの先生がいる。
テストの前に要点がまとめられていないレジュメだけを勉強するので大変である。
- ・クラスがない。友達がなかなか作れない。
つまらない。

設備

- ・言語系の教室が狭い。
- ・教室(特に160・171)が夏でも寒い!
寒くて手がかじかむ、授業に集中できない、服装に困る。
- ・暑い教室と寒い教室の差がひどい。210は暑すぎ、470は寒いです。
- ・冬にロードヒーティングがされてないので滑って転ぶ。怪我するから。
- ・学食が混む。まったり食べたい。
- ・食堂・購買が小さい。昼休みに買い物するのが大変。
食堂に行くと時間の余裕がなくなる。
- ・食堂の提供時間が短い。(3時~4時も使いたい)。
3・4講終わってから5:00まで食堂開くの待ってられない。
- ・食堂のご飯がイマイチ、値段も納得いかない。
- ・休憩するところがない。
- ・喫煙コーナーは作られているが、結局においはもれているので、商大の区域内では外を含め、完全禁煙にしてほしい。
- ・寮がないところ。
一人暮らししているのですが、やっぱりアパートは高い。

その他気付いたこと

- ・坂の上にあるのは特に問題ないと思います。理由は駅に近く歩いて通えるからです。
- ・3年生にもロッカーを!
- ・校舎をユニバーサルデザインにすべきだ。車椅子の人が商大に入学するのは物理的に不可能。
- ・第二外国語が必修になっているが、英語を専攻したい人もいると思うので、そういう選択も可能になったら喜ぶ人もいると思います。
- ・サークルに参加していない学生は体育館の使用はなかなか難しい。
- ・お金がない。
- ・駅から大学までもっと安い交通機関があればいいと思う。
- ・無料のスクールバスorタクシーチケット。(月ごとの回数券でも良い)
- ・中央バスの商大線の運行ダイヤを見直してほしい。例えば、講義の終了時の本数を増やすなど。5講目の後、混んでいて乗れないことがあります。
- ・生協の各種申し込みがわかりにくい。
- ・授業で配られたプリントをバインダーに閉じたいと思っている学生がいるので、一度に26穴開けられる穴あけパンチを設置してほしい。
- ・学校の敷地内でタバコを吸っている人がいました。歩きタバコは周りの人に煙を吸わせていることになるし、灰も飛び散るので注意を呼びかけてほしいです。
- ・教室が汚いと思う。かばんを床に置きたくないので、かばんを引っ掛ける部分をつくるか、教室をきれいにしてほしい。

- ・図書館に小説が少ない 読みたい小説が学校にあると便利だから。
- ・掲示をオンライン化すべきだと思う。不便だから。
- ・掲示板が見づらくなった。
- ・コピーカードがコンビニ並みに高い、一つの大学としてこんな価格でなかなか理解できない。他の大学と比べてやっぱり高いですね。
- ・トイレが汚い。国立だからしょうがない。
- ・校舎が古い。
- ・教室が汚い。
- ・5号館の階段がきつい。
- ・札幌キャンパスって活用されているの?
あるのは知ってるけど、ビジネススクール・就職セミナーしか使っていないのでは?もっと使えばいいのに。

人間

- ・授業中の私語が多い。先生に注意されてもしゃべるので、迷惑!不快だから。
- ・学生のやる気がないため、制度を活かしきれていない。
留年しすぎ(自分を含む)・内容よりも単位取得のしやすさで履修選択する学生が多い。
- ・サークルや部活がもっといい意味で活動的になればいいと思う。(でも、強引な勧誘はやめて欲しい) 仲間を増やしたいし、学生生活を楽してみたいと思っている一年生は多いです。でも、なんかの理由があってサークル等に参加できない。各サークルの良さを伝えられる場があるといいですけど...
- ・学生同士の交流は非常に少ない。
サークルとかをやらないとかなり孤独。
- ・あまり友達ができない。出会いは大切だと思うから。
- ・教員の質、やり方。少し専制的。

その他

- ・北大と2次試験の科目が同じなので、北大がだめだった人のすべり止めにされる。
商大が第一希望の人が入れないかもしれない。
- ・1講目を9:00~にしてほしい。
8:50というのは半端だし、10分の差は大きいから。
- ・朝の授業が早い。(十分遅くして欲しい)
電車を一本遅らせるのと急いで坂を上らないといけなから。
- ・時間、場所を大切にしたい。

- ・体育館の虫はどうにかありませんか?
- ・購買にごはんのおかずになるものを売ってほしいです。
- ・5号館にエレベーターをつけてほしい。
- ・5号館にエレベーターを設置すればいいのに。階段もひとつでは足りない気がする。
- ・5号館が寒い。あたためてほしい。
- ・談話をできるような控室がもっとあるといいと思う。
- ・履修において英語選択などで抽選により、希望通りになつたくせに、欠席を続けている人がいるのはどういうことか意味がわかりません。その席を抽選にもれた人へ与えることはできないのでしょうか。歯がゆくてなりません。
- ・留学生だけではなく、他の学生も住める「寮」を作ってほしい!!
- ・サークル会館をもっときれいにしてほしい。
- ・こんなにきつい坂の上にあるのはおかしいと思う。車の駐車場をつくらせて、車通学も可にしてほしい。
- ・留学生が多いわりに、学生と留学生間の交流が少ない。
- ・遊べる場所がないような場所に商大が建設されている。
- ・地域と手を取り合い、もっとオープンな商大に!
- ・図書館に、小説や娯楽雑誌(映画などの)を置いて欲しい。
- ・食堂は15時まで営業してほしい。

編集後記

◆記事ができるまで

多くの方々のご協力のおかげで記事を完成させることができました!!この場をお借りして、御礼申し上げます。(学生編集員一同)

4/18
小樽商科大学
グリークラブを取材!

4/26~5/7
第1回
学生へのアンケート実施
1件しか集まらず...(メールとmixiで)

第2回
学生への
アンケート実施
(メールとmixiに加えアンケート用紙でも)

教員への
アンケート実施

職員への
アンケート実施

5月下旬~6月上旬

学生を除ながら
支えてください

5/31
北海道大学
混声合唱団さん
取材!
練習の様子を取材させていただきました

5/29
北海道大学
合唱団さん
取材!
お知らせ~
8/9 大雪クリスタルホテルにて
大雪山麓合唱団さんと
大雪山麓合唱団さんと
ジョイントコンサート
H20 1/9 札幌市教育文化館
にて定期演奏会

社会学・憲法・マーケティング
でアンケートの宣伝をさせていただきました!
またゼミ室にも配付。

5/26
北海道大学
混声合唱団さん
取材!

お知らせ~
H20 2/3 札幌市教育文化
会館大ホールにて
定期演奏会

5/22
秋山学長を
インタビュー
しました!

いくつかの部・サークルへ
アンケートを実施!

6/4~6/12

アンケートで得た情報は、「100周年に向けて」のコラムで取り扱う予定だったのですが、構成上、取り上げることができませんでした。次回に活用したいと思います。...ですが、ほんの一部公開します。

12の部・サークル(計120名)から回答を得ました。ありがとうございます!

部・サークルに入ったきっかけでもっとも多かった回答は、「部の雰囲気良かったから」で、71名。

より良い活動のために大学側に求めることとしては、「部室の提供」「必要最低限の備品の提供」また「部活動(大会が平日行われるため)で学校を休まざるをえないときの欠席は多少認めてほしい」などがありました。3つ目の要望に関して、12の部・サークルのうち11から次のような回答をいただきました。

1. 部員に対し練習(合宿を含む)のために講義を休むようすすめたことがある。「はい」 3
2. 部員に対し試合のために講義を休むよう部員にすすめたことがある。「はい」 4
3. 練習のために、「~講目は空けておいてほしい」と履修登録前に部員にお願いしたことがある。「はい」 3
4. 試合や合宿のために講義を休まざるを得ない時、教員はもう少しそのことについて寛大であってほしいと感じたことがある。「はい」 5

このような回答をいただいた一方、「どうしても休んでほしい時以外はなるべく休まないようにと部員にしている」部・サークルもありました。部活動と両立に関しては、「よくできていると思う」が19名、「まあまあできている」が51名、「どちらともいえない」が23名、「ややできていない」が11名、「全くできていない」が10名でした。やはり「本業は勉学」を忘れずにいる学生の方が多いようです。

6/5
グリークラブ
OBの方々を
取材!!

3時間もお話ししてくださいました!
また、入江さんに資料と写真を貸して
いただきました。

さらに多くのグリークラブ
の方々を取材

コラムを読んでチェックしてもらいました!
また、写真も貸して
いただきました。

資料集め、集計、原稿づくり
チェック

6/15
緑丘会札幌市部
年次大会を取材!

「学園だより」のPRやご協
力をお願いしてきました!

完成!

◆学生編集員から

伊藤: 決して順風満帆とはいかなかったですが、学園だよりの編集に携わることができて本当によかったです。いい経験になりました。そしてお世話になった全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました!

國上: 「私は今回初めて編集という作業をしたのですが、すごく戸惑いました。そして自分の言葉がいかにも未熟かということを感じました...。次回からの目標はもっと丁寧な日本語を使えるようになる!です。」

小野: 「学生が学園だよりに携わるという初めての試みに戸惑うことも多いですが、少しでも多くの人に学園だよりに手をとってもらい、少しでも商大に変化が訪れればいいなと思います。」

佐藤: 「高校では放送局や新聞局に入り、取材や原稿作りの楽しさを存分に楽しんだ私。大学でも何か取材をしたり文章を書いたりしたいなと思っていました。「学園だより」の編集に携わることができてとても嬉しいです。ちなみに、学生編集員になって初めて、「名刺交換」というものをしました。」

HEALTHY LIFE JOURNAL

NO.50 2007.7
小樽商科大学
保健管理センター

ヘルシーライフジャーナル

海外からきた留学生

商大には学生の国際交流システムがあります。

保健センターには外国からの留学生が相談にくることが多いように思います。それは最近そうだったのではなく、10年以上前からほとんど同じです。たいてい、病院にかかるべきか、本当に病院へ行くような病気なのかどうか相談にくるのです。病院にかかること、かなりお金がかかることを知っていて、まず簡単にすませられるか、という理由もあるでしょう。

留学生同士で相談して方針を決めることもありますが、同国からの学生がいなかったり、頼れる仲間がいない学生が多いように見えます。

まずことばの問題があるので私が話を聴く場合が多くなります。かんたんな英語しかできません。日本語はアメリカ人(全部ではないが)はほとんど出来ず(やる気もない)、中国、韓国の学生は大体りっぱなもので、ヨーロッパ人でもたまたま、信じられないほど話せる人がいました。

医学の基本は世界共通なので、話を聴くだけで見当はつきます。風邪などの病気やトラブルの種類は、日本の学生と変わりがありません。感心なのは、自分の病歴や過去に受けた医療について、明確に話せる人が多いことです。

病気の話以外にも、私が関心を持って聴いてみることもあります。お国の気候と小樽ではかなり違うのではないかと、バイロイト大学のドイツ学生に、ワグナーの楽劇に世界中からファンが集まるのを知っているか(そういえばそんなこともやっていますね)、南フランスでは雪が降るか。等々。

途上国からの学生の中には、お国の事情、主に政治的紛争・内乱で帰られない人や、国費留学で来た場合に帰国した後の役割などノルマがあるなど、いろいろな問題をかかえている人がいます。

この人達との話は異文化社会との小さな接触だろうかと考えます。

とくに宗教・生活の風習は、科学が発達するはるか以前から、各民族の行動の原理であったもの

ですから、そう簡単にはわかるものではありません。

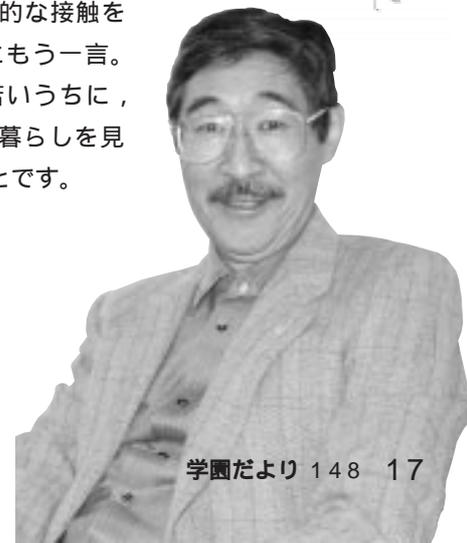
ところで現代は情報化社会といわれてからかなりたっているのに、このあたりの相互理解はあまりすすんではないように思われます。それでも情報は地球規模となって、その中で一国や一地域だけで成り立つような生活は少なくなりました。物資や環境の共有が欠かせなくなってきたからです。かえてこのような経済状況は、長いあいだ営んできたいろいろな民族や国家における生活を脅かしてもいます。

異文化を理解しようとしめないことは、ついには円滑な国際交流を妨げる意見や活動につながる可能性さえあるでしょう。その根本はナショナリズム。つまり物資を確保して自民族が繁栄すること、そして生物学的とも言える人類(民族)の人口的、地域的な拡大主義でしょう。

これらがぶつかり合うことや宗教的な不寛容によって、古くには戦闘的な戦争、近くは現代的な科学的な攻撃、さらに一見戦争とは見えずらい経済的な闘争のかたちに移行しているようにみえます。

留学生のことに直接関わりのない話しになってしまいましたが、彼らが小樽商大に来たのは勇氣あることのように思えます。何となく来たのではなく、ある程度の目標を立てているからです。気の強い人、シャイな学生もいます。「日本の学生さん」もそれなりに、文化的な接触をしてほしいと思います。それにもう一言。まず日本自身をよく知って、若いうちに、一度は外国へ行って違う文化の暮らしを見ることは、とてもためになることです。

小樽商科大学保健管理センター
所長 浅沼 義英



第55回

緑丘祭

テーマ
FIRE 55



第55回緑丘祭実行委員



実行委員長 上村 佳弘

第55回緑丘祭を終えて

今年の緑丘祭は、天候に翻弄されたお祭でした。ここ数年ほど気温も上がらず4日間を通して曇りの天気でした。一般公開初日の朝に「今年は来場者が少ないのでは？」と内心思っていました。天候に関係なくたくさんの方に来ていただきました。毎年恒例となりました流しそうめんは、好評で用意した食材があっという間になくなってしまふほどの人気振りでした。また、市内のよさこいチームによる演舞では、チームの人と一緒に一般の方も踊っていたのでこの緑丘祭を通じて市民の方々の交流が深まったと思いました。

また、商大生同士の交流の場としての機能も果たせたと思っています。ステージ上で行われた企画に積極的に参加して下さったり、出店を出している学生は自分たちのお店の物を売るために多くに人に声をかけたりしていました。

最後になりましたが、第55回緑丘祭の開催にあたり協力していただきました、商大・緑丘会・札幌や小樽市内の企業の方々、ありがとうございました。



第16回 緑宵祭

第16回



実行委員長 佐々木 春香

第16回緑宵祭実行委員



学祭を終えて

今年の学祭はとても楽しく、そして何より頼もしく愉快的な27名の仲間たちに助けられ学祭を作り上げることができました。

昨年度までの経験や知識もほとんどなく、手探り状態での活動でした。活動し始める時期が遅く、周りの仲間に指摘されなくては気づかなかったことも多々ありました。話し合うことの必要性、後輩に対する仕事の指示の必要性を学ばされました。たった一つのイベントとは言え、私だけの力では成り立たず、28人全員のちょっとした気遣いや責任感など多くの要素により成り立つということ、実行委員長として仕事をしてみて気づきました。

期間中、特別大きな問題が起きなかったことも幸いであり、多くの人の楽しんでる姿を多く見受けられました。また個人的に感じたのは、4年目としての視点で見た限り、昨年までにはなかった若さを感じました。来年の学祭にはまた一味変わった、後輩達らしい学祭を作り上げて頂きたいと思っています。

唯一多くの学生と交流を図れる学祭を、有意義に過ごすことができたことをとてもうれしく思います。

実行委員のみんな、また陰ながら支え、盛り上げてくれた多くの皆さんに感謝です!!!

よき思い出をありがとう!



「小樽商科大学緑丘奨励金授与式」を挙行

6月28日（木）に学長室において、緑丘奨励金授与式が行われました。

「緑丘奨励金」は、本学の同窓会である社団法人緑丘会よりの援助を受け、1年次に優秀な成績を修めた学部2年生10名と大学院2年生の各専攻それぞれ1名に、奨励金を授与する制度で、本年度から開始されました。

秋山学長から、各人に奨励金が授与されるとともに、学長並びに緑丘会札幌支部長から励ましの言葉をいただき式を終了しました。



小樽商科大学グリーンヒル（学生支援）プロジェクトの採択

小樽商科大学グリーンヒル（学生支援）プロジェクトは、本学の同窓会である社団法人緑丘会から助成を受け、本学学生が、個人又はグループで地域社会との文化的・社会的連携等に寄与する目的で、課外活動として行うプロジェクトに対して支援を行うものです。

本年度は、申込みのあった中から、以下の企画が採択されました。

記

1. 商大剣道部地域交流稽古会

地域交流と本学剣道部員の錬成を目的に、月曜日と土曜日の週2回、小・中・高校生及び仕事等で普段は稽古ができない一般市民を対象に、本学武道場で交流稽古会を行う。

稽古を通じて、剣道という日本の伝統文化を地域に広めるとともに地域の人々と積極的に交流し、学生と市民のつながりを深め、ひいては大学と地域社会との連携に寄与することを目的とする。

2. 「地域再生フォーラム in 室蘭」への参加

本年9月8日（土）に室蘭工業大学と小樽商科大学が主催する「地域再生フォーラム in 室蘭」において実施される「水素自動車導入ロードマップづくり」ワークショップに学生グループとして参加し、発表を通じて、室蘭工業大学及び室蘭地域の市民と意見交換等を行い交流を図ることを目的とする。

昨年に引き続き「おたる運河ロードレース」に参加

本学では、6月17日（日）に開催された第19回おたる運河ロードレースに、昨年に引き続き参加しました。

参加は、陸上部、女子バスケット部はもとより、教員、一般学生、留学生、さらには、昨年に引き続き、本学OBの方4人の参加をいただき、「小樽商大」のネーム入りユニフォームを着け、好天の空の下を、爽やかに力走し、全員が完走することができました。

レース終了後は、OBの方々の計らいで交流会が開催され、来年も参加することを誓い合うなど、なかなか中での現役とOBの交流が行われました。



「シーグリーン」リニューアルオープン

5月7日（月）から学生会館2階「シーグリーン」がリニューアルオープンしました。

平日、月曜日から金曜日の午前11時から午後2時の間、営業しています。

お店の澁谷店長からは、「日替りランチ等を揃え、リーズナブルな料金で、料理を提供いたしておりますので、学生の皆さんには、是非、ご利用願います。」とのことでした。

消費生活相談室の開設について

本年4月から、毎月第3木曜日に「学生なんでも相談室」において、小樽消費者センターから吉田幸子 相談員の派遣を受け、学生の皆さんの消費生活について相談を受けております。

不本意な物を買わされた等のクーリング・オフについてなど、学生の皆さんの消費生活のトラブル全般について、相談することができます。

今後、何らかのトラブルに巻き込まれた場合は、早めに同相談室を利用願います。

「何でも相談室」からのお知らせ

本年度から、新任の女性カウンセラーが毎週月曜日にカウンセリングを担当しています。

お名前は藤田有里さん、といたします。

本学卒業後、アメリカでカウンセリングの勉強をされ、臨床心理士の資格をお持ちです。

カウンセリングを受けてみたい方はご連絡下さい。お待ちしております。

予約連絡先

何でも相談室 : TEL 0134-27-5241 E-mail soudan@office.otaru-uc.ac.jp

保健管理センター : TEL 0134-27-5266 E-mail s-kiyomi@office.otaru-uc.ac.jp

新任教員紹介

前田 陽 (まえだ あきら)
商学部准教授 (商学科)

AKIRA MAEDA

1

はじめまして。本年4月より本学商学科に赴任しました前田陽です。出身地は静岡県、大学生生活は東京で過ごしました。初めて北海道で生活するもので、分からない点が多いとあります。ぜひ様々な生活の知恵を教えていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

私の専門分野は、管理会計 (Management Accounting) と原価計算 (Costing) です。そして、現在は日本企業における原価管理を中心に研究しております。

管理会計とは、企業の経営管理者に対して、経営管理に必要な不可欠な経済的情報を提供するために、適切な定量的なデータを認識し、測定し、記録し、分類し、要約し、解説するという理論・技術です。もっと簡単に言ってしまうと、より合理的な意思決定を行なえるようにするための情報を提供するという学問です。

こうした情報に対するニーズは社会に幅広く存在します。例えば、皆さんのアルバイト先の会社でも、買い物をするコンビニでも、遊びに行くレジャー施設でも定量的なデータに基づいて経営が行なわれています。そして、将来、皆さんが起業すれば、も

ちろんそこでも必要となることでしょう。

企業を経営していくには、さまざまな定量的なデータが必要となりますが、その中でも特に重要なのは、いかに効率的に材料や労働力といったインプットを製品・サービスといったアウトプットに変換できたのかという情報です。なぜなら、競合他社よりも効率的にインプットをアウトプットに変換できた会社こそが、低価格競争や製品の差別化といった競争に勝つことができるからです。そこで、有効な情報をもたらしてくれるのが原価計算です。

本年度、私は「原価計算論」を担当します。そこでは、さまざまな会社のケースを参考にしながら、管理会計・原価計算の意義を分かりやすく説明していきたいと考えております。もし、分かりにくい箇所がありましたら、どんどん質問に来てください。一緒に頑張っていきましょう。

NEW FACE

大岩 利依子 (おおいわ りえこ)
商学部准教授 (商学科)

RIEKO OHIWA

国立大学法人小樽商科大学における個人情報の開示等に関する規程第7条により記事を削除しました。

2

才原 慶道 (さいはら よしみち) 商学部准教授 (企業法学科)

YOSHIMICHI SAIHARA

皆さん、(これまで非常勤講師を務めていましたので、ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、初めての方も大勢いらっしゃると思いますので、) はじめまして。この4月に准教授として企業法学科に着任しました才原慶道です。知的財産権法を担当します。どうぞよろしくお願いいたします。不惑を目の前にして、初めて大学の教員となりました。行く手には地獄坂が立ちほだかりますが、緑深いこのキャンパスを仕事場とすることができて大変嬉しく思っています。

略歴ですが、札幌市内の高校を卒業後、大学(法学部)は東京へ行きました。その後、10年ほど、法曹(法律実務家)として、社会に起こる現実の紛争の解決などに携わってきました。そして、大学の研究員を経て、このたび、本学に着任しました。振り返ってみれば、仕事は変わりましたが、大学以来、20年近く法律一筋ということになります。

皆さんはこれまで法律というものを意識したことは少ないかと思いますが、法律は、社会を動かす道具の一つです。その道具の使い方を学ぶのが法学です。そして、知的財産法とは、小説や音楽、絵画などの著作

物を対象とする著作権法や、発明を対象とする特許法など、知的創作物を保護する法律です。科学技術の飛躍的な進歩など、現代における社会環境の著しい変化の中で、日々、新たな問題が生まれてきています。著作権法や特許法などが目的とする文化や産業の発展のために、これらの知的創作物の保護とその利用の調和をどのように図っていくべきか、それを探っていくのが私の研究テーマです。このような世界に少しでも興味を持った方がいれば、法学、そして知的財産法の扉を叩いてみてください。



西永 亮 (にしなが りょう) 商学部准教授 (一般教育等)

RYO NISHINAGA

本年度より「社会思想史」担当教員として赴任いたしました。専門は20世紀初頭ドイツの社会・政治思想の研究です。第一次世界大戦とロシア革命という大規模な暴力的現象をめぐる、当時の思想家たちはどのような考えを展開したのか、ということテーマにしています。最近「文明」・「文化」・「自然」の概念を手がかりに研究を行なっています。

私が東京の大学に入学したのは1991年のことで、いわゆる冷戦が終結した直後の時期でした。そうした時代の雰囲気を反映してか、私たち学生のあいだでは国際関係の科目に人気があり、私もいくつが履修していました。教員の側も、同時進行で推移する世界情勢と自分の講義をリンクさせながら、幾分興奮気味に話していたのを今でも覚えています。しかし私自身は、そうした講義に多くを学びつつも、どこか物足りなさを感じていました。というのも、結局そうした科目(とそこに群がる学生たち)は流行を後から追いかけているだけで、激動する世界においては現実をその根本から問いなおすことこそ必要なのではないか、と生意気にも思っていたからです(もっとも、

みんなと同じことをするのを好まない生来の気質も手伝っていたでしょう...)

そう思っていた私は、最新の学問に触れながら、同時に哲学・思想系の講義にも顔を出すようにしました。そこで出会ったのは、自由主義が社会主義に勝利したなどという済ますような楽観的な雰囲気ではなく、今こそ自由主義の「再検討」が求められているのだという真摯な姿勢であり、また「正義とは何か」、「なぜ人間は暴力をふるったり他者を排除したりするのか」といった根源的な問いかけでした。以来、大学院進学から今日に至るまで、私の教育・研究者としての人生のきっかけの1つは、大学での講義にあったといっても過言ではありません。

このように述べると次のような誤解を招いてしまうかもしれません。哲学・思想系の学問は時代に流されることなく、つねに本質的な問いに取り組んでいるのだ、と。これは決して正しい理解ではありません。なぜなら、哲学や思想が学生たちのあいだで流行した時代があつたの日本にあつたからです。私の世代に近いものを挙げれば、1980年代のいわゆる「ニューアカデミズム」

ブームです。今では想像できないことですが、思想書がベストセラーになるほどだったのです。そのなかには今日に継承されるべき仕事もありますが、そのほとんどは単なる流行として大量生産・消費のなかで忘れ去られていきました。このように、思想系の学問もまた、流行を追うあまり学生に対して無責任になってしまう危険を免れないのです。このことは、社会思想史を担当する者として決して忘れてはならないことだと考えています。

それでは、時代の流行に流されることなく、知を身につけるということは一体どうということなのでしょうか。それは、自分の生き方においてその知を実践できるかどうかにかかっているように思われます。そのためには、どの講義やゼミを履修するにせよ、最終的には一人一人が自分で、独立して考えることが必要です。この点において、学生と教員のあいだに違いは全くありません。その意味では教員もまた一人の学徒であるということができるといえるでしょう。少なくとも私はそう考えています。

写真でみる小樽高商・商大小史 ⑮

百年史編纂室

建設中の旧校舎

この連載で以前、小樽市博物館所蔵の敷地造成写真をご紹介したことがある。今回は、現役・税理士の林宏哉さん（一九四四年卒）から寄贈いただいた、旧校舎建設中の写真六枚のうち二枚である。デジタル化されたものとともに、丁寧な入手経緯のご説明文があり、また、送付される前にお電話もいただいた。

校舎の設計建築には、文部技官が数人、直接携わっているが、そのうちの一人・山田太市の子孫が現在、桐生市に住んでおり、関係写真を大切に保存されてきた。林さんは同市に事務所を開業して五〇年となり、林さん自身が郷土史などにも強い関心をお持ちということもあって、今回、ご提供していただけることになった。

そもそも、学内に残る資料は、校舎が完成し、本校に「引渡し」が行われ、実際に学校としての活動をはじめてからのもの一部だけである。従って、土地の寄附資料は小樽市が所蔵していることにな



本館建設中の写真（林宏哉さん提供）

るし、渡辺校長他初期の教職員の任命記録は、当然、学内に「控え」はないから、現在、国立公文書館で確認中である。因みに、任命記録のような書類も、ほか何名という具合にひとくくりで書類が出てくるので、本人の名前では、直接、確認することはできない。同じ時期に採用された教職員の一人の名が代表して件名に出てくる。代表者は別の官立学校の教職員であったりもするので、けっこう確認するのは大変である。他の資料でも（例えば「修学旅行」といった事項での調査でも）同様のことがありそうで、

ネット時代の盲点といえる。カードや目録が整備されていた時代は、見ているうちに前後で目に入ることもあったが、ネット検索はあるかないかの、ヒットするかしないかの二者択一しかない。特に、一点資料については、システム構築側の柔軟な力量も問われることになる。

話は脱線したが、掲載した写真は言うまでもなく、大変貴重なも



完成直後（一部工事中）と思われる写真（林宏哉さん提供）

のである。林さんも学内にあるだろうくらいに思われていたかもしれないが、よく考えると、学内には重要な資料がそもそも現存していないことがある。開校してからも配布資料など保存をあまり考えないもの、あるいは配布のみが目的のもの等である。入試関係の受験票や合格通知などは典型例だろう。今回の資料も入手できるとは考えてもいなかったものである。林さんがご連絡をしてくださったこと、それについても感謝したい。この写真をきっかけに、また新たな資料探索が始まりそうである。

第16回 緑宵祭
第55回 緑丘祭

素晴らしい汗をありがとう

緑丘祭 & 緑宵祭

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

